AISEI-NEWS

愛整ニュース 131

公益社団法人 愛知県柔道整復師会

2023 年 2 月 24 日発行（通巻 426 号）

令和 5 年

https://shadan-aisei.jp/

愛知県施術所光熱費高騰対策支援金

1 施術所　30,000 円　支給決定

第 17 回日本マスターズ柔道大会優勝

1 月 21～22 日（日）講道館にて「2022 日本ベテランズ国際柔道大会（第 17 回日本マスターズ柔道大会)」が開催され、私は M10（75～79 歳）の 81kg のクラスに出場しました。

第３種郵便物認可

メダルを示す諸山さん＝新城市杉山で

マスターズ柔道 8 度目の優勝

新城　諸山さん「3 連覇を目指したい」

新城市杉山の接骨院経営諸山和美さん（76）が、第17回「日本マスターズ柔道大会」（国際柔道連盟主催）の75～79歳の部81キロ以下級で優勝した。大会には第1回から14回出場しており、優勝は8度目だ。【安藤聡】

大会は1月29日に東京都内であった。81キロ以下級には4人が出場した。トーナメントで戦った。初戦は開始約30秒で払い腰を決めて一本勝ち。続く決勝は大内刈りと上四方固めの合わせ技で一本勝ちした。

新型コロナウイルス禍で4年ぶりの大会。「ランクがあって昨年11月から柔道着を着て練習を再開した。組み手をする」と闘争心にスイッチが入った」と振り返った。

高校1年で黒帯を取得し愛知大学卒業後、サラリーマンとなって27歳まで部活動を続けた。退職後、柔道整復師の資格を取り1988年、42歳で接骨院を開院した。競技活動は翌年に再開した。

マスターズ大会は2004年の第1回から出場。2回目の07年大会で初優勝した。前回は70～74歳部門で優勝した。現在は毎日ハーベルトレーニングで筋力を維持。週末は羽根の付いたボールを手で打ち合うインディアカ競技に取り組んで体力向上に努める。「これまで2回連続優勝が最高だったので次で初の3連覇を目指したい」と語った。

優勝した諸山さん（中央）＝都内で（提供）

東愛知新聞より抜粋

2019 年 5 月開催の福井大会以来約 3 年 8 ヶ月ぶりの大会で、柔道着も出場を決めてから昨年 11 月に久しぶりに着た状態で、練習不足ではありましたが、地元の新城柔道教室で練習をさせていただきました。

週 1～2 回行っていた、ベンチプレス.バーベルスクワットと、週 1 回のインディアカが多少良かったのではないかと思っています。

次回は、過去に何度か対戦して全敗している、天理大学柔道部 OB で大分県の選手が同じクラスで出場してくると思うので、お互い出場すれば対戦の可能性があります。次の大会までに練習を重ね、準備万端整えて何とか雪辱を果たしたいと思っています。

［生涯柔道］を目指して頑張っていきたいと思っています。

（豊橋支部　諸山 和美）

1 月 28 日（土）午前 9 時より、愛知県武道館にて愛知県高等学校新人体育大会柔道競技が開催され、医師 2 名、柔道整復師（森）1 名で救護に携わった。

自分が見ていた目の前の試合で選手が投げられた際、右前頭部を打ち頸椎損傷及び脳震盪、軽度意識朦朧、頭痛を訴え、診察してくださった二村医師の指示により救急搬送。

その 30 分後には絞技により落ちた選手が蘇生後、意識朦朧、右握力低下、起上動作困難により、再び二村医師の指示にて救急搬送。

さらに 30 分後には左肩関節亜脱臼の診断を受けた選手を二村医師が整復。

その後は擦過傷等のみの軽傷者だったが、小学生達の試合と違い、やはり高校生ともなると怪我の状態も激しいものもあり気の許せない緊張感であった。怪我をしないのはもちろんであるが、基礎練習をしっかりとやり、怪我防止に努めるのも大事であると痛感すると共に、柔道をわかっておられる医師が帯同してくださるのはとても心強いと感じた。

（半田支部　森 正仁）

目指せ！ AT

柔道救護を継続的に行うことで、公益財団法人日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講習会受講者の推薦がいただけます。（愛整会・愛知県柔道連盟で審議し、（公財）愛知県スポーツ協会の選考があります）　詳しくは柔道部まで(3/6まで)

介護のご相談は
愛柔整介護ステーション

管理者　平岩 治郎（直通）052-602-6660